【ｐ30～ｐ35】　神戸の水

１　資料活用にあたって

○　長文のため事前に読ませておく。
○　３０ページ～３３ページ８行目までは、主人公が「神戸の水」が世界一であることを知る様子について教師が要点を説明し、３０ページ９行目から発問構成する進め方もある。

２　資料の読み方のポイント

○　変化するのは：わたし（子どもが「わたし」になって考えられるように発問を工夫する。）
○　変化のきっかけ（助言）は：「水がごっついきれいやんか」
○　変化するところは：「そうや、そうやった。」

３　読み物資料の素材について

【参考ＵＲＬ】

・　神戸市立水の科学博物館（神戸市ホームページ内）
http://www.city.kobe.lg.jp/life/town/waterworks/water/hakubutukan/

【訪れたい場所】

・　神戸市立水の科学博物館
〒652-0004　神戸市兵庫区楠谷町 37-1　℡：078-351-4488

○　神戸の水について

・　神戸の水がおいしく、くさりにくいと言われているのは、六甲山系に降り注いだ雨が豊かな森林から豊富なミネラルを含みながら、花崗岩が風化した地層を通って地下にしみ込んでわき水になるからであると言われている。
・　神戸の水が世界的に有名になったのは、神戸港から船に積み込んで赤道をこえるぐらい遠くに行ってもおいしく飲めたからである。また、神戸の水は食品の国際コンテストで金賞をとったことでも有名である。
・　明治時代、神戸に入港した船が積み込んでいた神戸の水は、布引の滝上流の布引ダムにたくわえられていた水を使っていたと言われている。現在は、当時のように布引ダムの水が船に積み込まれることはない。
・　食品の国際コンテストで金賞をとった「神戸ウォーター」は、新幹線のトンネル工事の際にわき出してきた水が使われていた。現在、「神戸ウォーター」という名で販売はされていないが、ペットボトルウォーター「神戸の水だより～布引～」として神戸市役所売店や神戸市立水の科学博物館、神戸空港内などで発売されている。
・　わき水は、現在も神戸市の水道の水源の一部として使われている。とは言うものの、神戸市が自己水源で供給可能な量は神戸市で使用する量の４分の１程度である。残りの４分の３は、琵琶湖から流れて来ている淀川の水を阪神水道企業団から買っている。

○　布引の滝について

・　布引の滝は、新幹線の新神戸駅から山側に徒歩２０分程度の距離である。町の近くで美しい水に出会える場所である。布引は昔から和歌や物語によく登場したため、布引の滝周辺では歌碑を多く見ることができる。

（神戸市水道局発行パンフレット『神戸の水だより』から）

4　展開の具体例

神戸の水

・主　題　名　・自然を大切に　Ｄ（１９）

・資料の概要　・全校写生会の日、行く道で先生から神戸の水が世界でも評価されていることを聞いたわたしは驚く。布引の滝の絵を描き終えたわたしは、筆を洗って汚れた水を持ち帰ることをためらう。その時、友だちから声をかけられ、わたしは、はっとする。そして、荷物は重いが、足取りが軽く感じられるようになる。

・ね　ら　い　・「水がごっついきれいやんか」と言われ、はっとして道徳的に変化するわたしを通して、自然のすばらしさに感動し、自然や動植物を大切にしようとする道徳的判断力を育てる。

・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本Ｐ３２の写真（布引の滝）を見ましょう。
展開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。	
	・布引の滝を見た時の「わたし」の気持ちを考える。	布引の滝を見た時、「わたし」はどんな気持ちだったのでしょう。 ・世界一と言われるのがよくわかるぐらい水がきれい。 ・町の近くにこんな美しい水があるなんてすごいな。
	・ペットボトルのにごった水を見て手が止まった主人公の気持ちを考える。	ペットボトルをリュックサックに入れようとして、手が止まった「わたし」は、どんなことを考えていたのでしょう。 ・にごっていてきたないし、持つのは重いな。 ・こっそりどこかに流してしまおうかな。 ・これくらいの少しの水なら流しても大丈夫だろう。
	・としゆきから声をかけられ、はっとした時の主人公の気持ちを考える。	としゆきさんに「水がごっついきれいやんか」と言われてはっとした「わたし」は、どう思ったのでしょう。 ・神戸のきれいな水を汚してしまうところだった。 ・せっかく絵できれいに水を描けたのに、本物の自然を汚してはだめだわ。 ・にごった水を流してしまおうとした時は、私の心もにごっていたのかもしれない。
	・帰り道足取りが軽く感じる主人公の気持ちを考える。	帰り道、足取りが何だか軽くなってくるように感じる「わたし」は、どんなことを考えていたのでしょう。 ・大切な自然を汚さなくてよかった。 ・美しい自然を大切にするのは私たち一人一人だわ。 ・神戸の水の美しさをずっと守っていきたいな。
終末	・感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。

33ページ８行目までは、主人公が神戸の水が世界一であることを知る様子について教師が要点を説明する。

美しさに感動している主人公の心に共感させる。

汚れた水を持ち帰ることをためらう主人公は、自然愛護に関する道徳上の問題を気にしていることをおさえる。

としゆきさんの「水がきれいやんか」という言葉がきっかけとなり、主人公の自然愛護の判断に関する考え方が変わったことをおさえる。

帰り道に足取りが軽く感じる主人公の心を考えさせ、主人公が自分の判断が正しかったと確信していることをつかませる。